

個人投資家様向け会社説明会

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長 グループCEO

2025年11月11日（火）



目 次

1. アンリツのご紹介
2. 事業のご紹介
3. 業績について
4. 中期経営計画
5. 株主様還元
6. ESGへの取り組み



130 年を超え挑む未来

アンリツは今年で創業130年を迎えました。これまで積み重ねてきた「はかる」技術を礎に、その応用範囲を広げ持続的な成長を目指していきます

[130周年記念ページへ >](#)



アンリツ株式会社

〒243-8555

神奈川県厚木市恩名5-1-1

Tel : 046 -223 -1111 (代表番号)

<https://www.anritsu.com>

- 創業（せきさんしゃ石杉社） : 1895年（明治28年）
- 資本金 : 192億19百万円（2025年3月31日現在）
- 売上高 : 1,129億79百万円（2025年3月期 連結）
- 従業員数 : 3,966名（連結）（2025年3月31日現在）
1,713名（単独）（2025年3月31日現在）

1-2. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆ モバイル市場 : 5G/6G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光/無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備、研究開発

PQA事業

食と医薬品の安全・安心



- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場

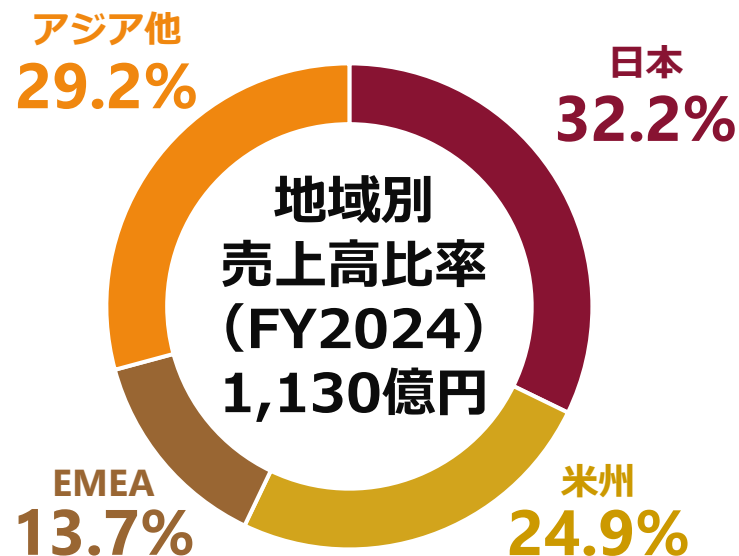
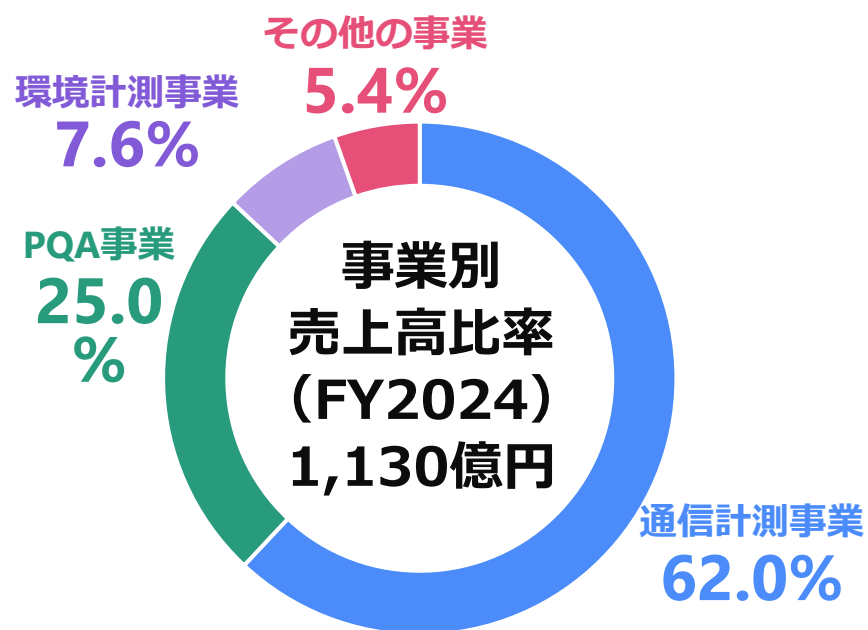
PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

脱炭素社会を目指して



- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場



* EMEA : 欧州・中近東・アフリカ

その他の事業

(センシング&デバイス事業など)

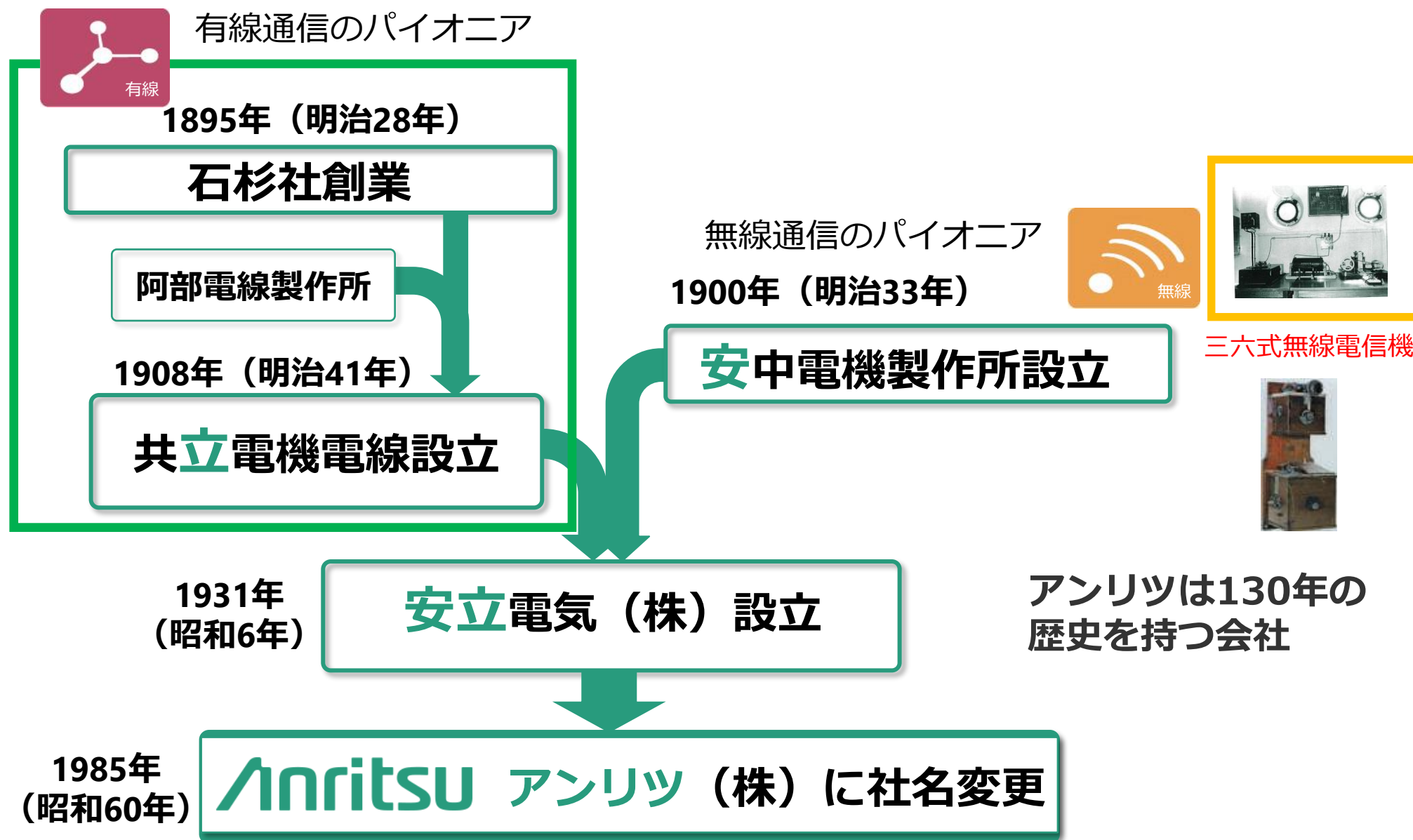
- ▶ センシング用光デバイス
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

1-3. 社名の由来



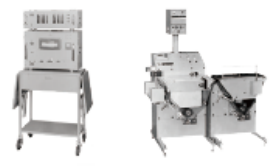
1-4. アンリツはこんな会社です

1895年の創業という長い歴史をもつ会社

- 常に情報通信の最先端技術を追い求めるパイオニアとして、挑戦の道を歩む

そして、今は

- コアコンピタンスである「はかる」技術をベースに、通信分野と食品分野を中心に支えている

黎明期 (1895～1930)	有線・無線の統合期 (1931～1949)	新生安立電気による 再興期 (1950～1962)	多角化による 事業拡大期 (1963～1974)	光のアンリツの時代 (1975～1989)	マルチナショナル企業 としての基盤づくり (1990～2000)	21世紀グローバル ブランドへの道 (2001～2020)	「はかる」を超える (2021～)
社 会 課 題 貢 献 の 歴 史							
1908：日本の有線通信の先駆者となる（自動電話機の量産化） 1914：世界初の無線電話機の実用化（TYK式*5無線電話機） 	1933：日本初のテレビジョン放送機の開発、製造 1939：磁気録音機（交流バイアス方式）開発 	1954：計測事業の先駆けとなるマイクロ波回線用計測器開発 1956：料金前払式の公衆電話機の量産 1956：船舶用のSSB*6無線電話装置開発 	1963：デジタル伝送向けの計測器（PCM*7ジッタ計測器）開発 1964：PQA事業の先駆けとなる重量選別機開発 	1977：計測制御用パソコン開発 1981：光通信向け計測器（世界初の光パルス試験器OTDR*8）開発 1982：カード式公衆電話機開発 	1993：デジタル移動無線用計測器をシリーズ化 2000：高速大容量光デジタル通信市場向けのSONET/SDH/PDH/ATM*9アナライザ開発 2000：X線異物検出機開発 	2003：世界初のW-CDMAコンフォーマンステストシステム開発 2018：世界初の3GPP規格準拠の5Gチップセット・端末検証用テスト開発 	2022：光トランシーバーを評価する4チャンネルオシロスコープ開発 2022：EV/電池向けに高電圧の双方向直流電源開発 
*5 TYK式：開発者である鳥潟、横山、北村三氏の頭文字 *6 SSB: Single Side Band *7 PCM: Pulse Code Modulation *8 OTDR: Optical Time Domain Reflectometer *9 PDH: Plesiochronous Digital Hierarchy, ATM: Asynchronous Transfer Mode							

1-5. 地域別事業展開

EMEA*

売上高
154億円
売上比率
13.7%

従業員数
345人
会社数
13社

* EMEA : 欧州、中近東、アフリカ

日本

売上高
364億円
売上比率
32.2%

従業員数
2,476人
会社数
12社



アンリツ株式会社（本社）

米州

売上高
281億円
売上比率
24.9%

従業員数
505人
会社数
7社

グループ

売上高
1,130億円

従業員数
3,966人

会社数
45社

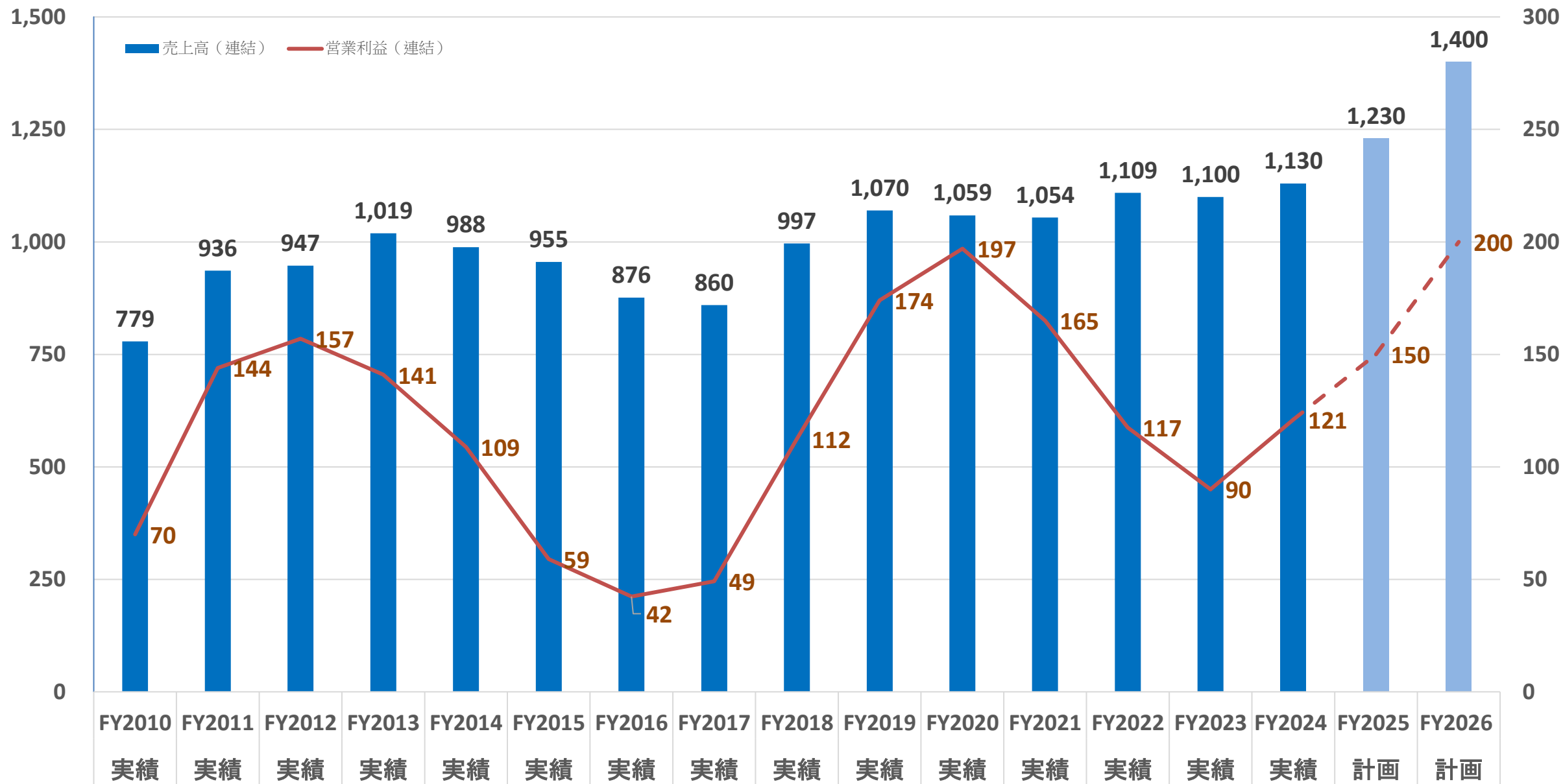
アジア他

売上高
330億円
売上比率
29.2%

従業員数
640人
会社数
13社

（2024年度もしくは2025年3月末時点）

1-6. 業績について



2. 主な事業のご紹介

- 通信計測事業
- PQA事業
- 環境計測事業

2-1. 事業の紹介 - 通信計測事業 -

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆ モバイル市場 : 5G/6G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光/無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備、研究開発

PQA事業

食と医薬品の安全・安心



- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場

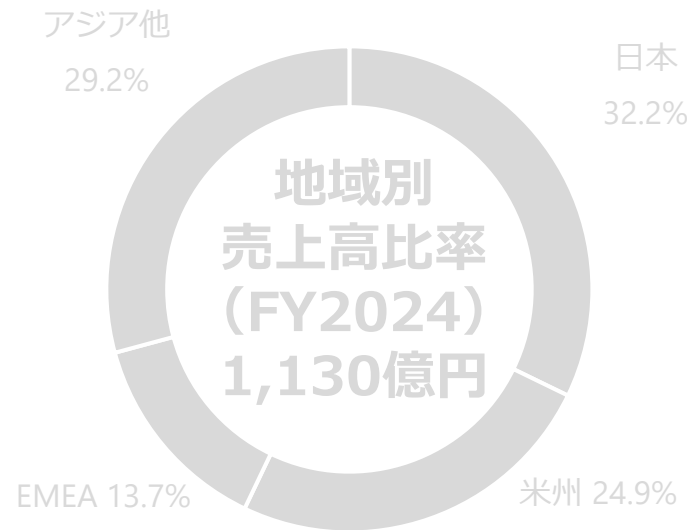
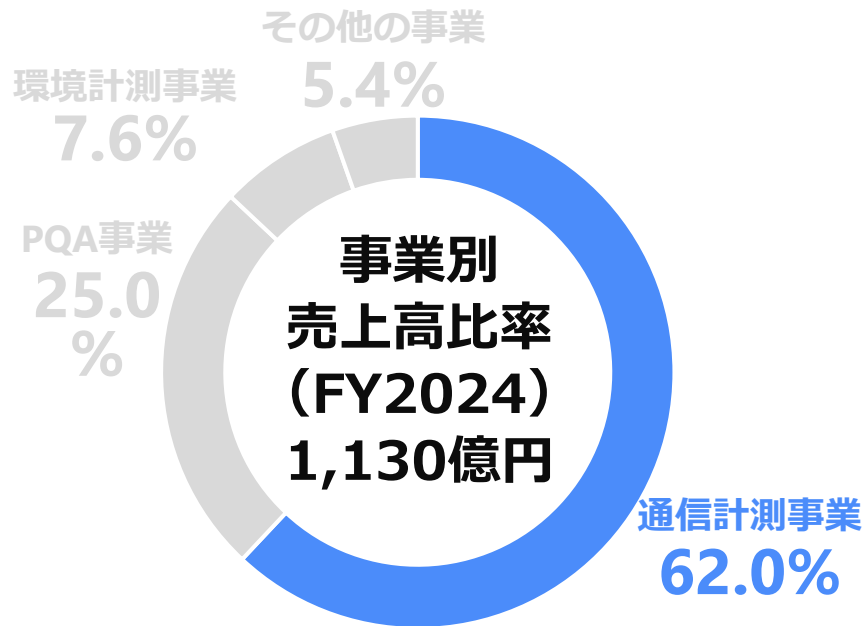
PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

脱炭素社会を目指して



- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場



* EMEA : 欧州・中近東・アフリカ

その他の事業

(センシング&デバイス事業など)

- ▶ センシング用光デバイス
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

2-2. 通信計測事業の製品・ソリューション

先進のテストソリューションを通じて、世界中のお客様とともに快適でスマートな社会の創造に貢献

AI・クラウドデータセンタの 高速化・最適化に

オートモティブ試験に

高速デジタルインタフェース・ 電子基板の開発に



シグナル クオリティ
アナライザ-R
MP1900A
BERTWave
MP2110A



eCall テスタ
MX703330E



シグナリングテスタ
MD8475B



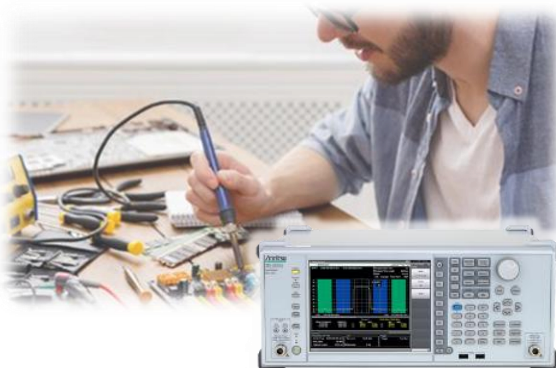
シグナル クオリティ
アナライザ-R
MP1900A
広帯域4ポートベクトル
ネットワークアナライザ
ME7838x4 Series

無線機器の検証に

モバイル・IoT機器の開発に

規格適合・事業者受入試験に

通信インフラの品質保証に



スペクトラムアナライザ/
シグナルアナライザ
MS2830A/MS2840A/MS2850A



ラジオ コミュニケーション
テストステーション
MT8000A

ワイヤレス
コネクティビティ
テストセット
MT8862A



CATR Anechoic
Chamber MA8172A

New Radio RF
コンFORMANCE
テストシステム
ME7873NR



Field Master Pro™
MS2090A
アクセスマスタ
MT9085 series

2-3. 通信計測業界の特徴とアンリツの強み

通信計測業界の特徴

- 変化が激しい通信業界への素早い適応力が求められる
- 技術的な参入障壁が高く、限られた主要プレイヤーによる競争
- 主な競合企業は世界に2社
キーサイト・テクノロジー（米）
ローデ・アンド・シュワルツ（独）

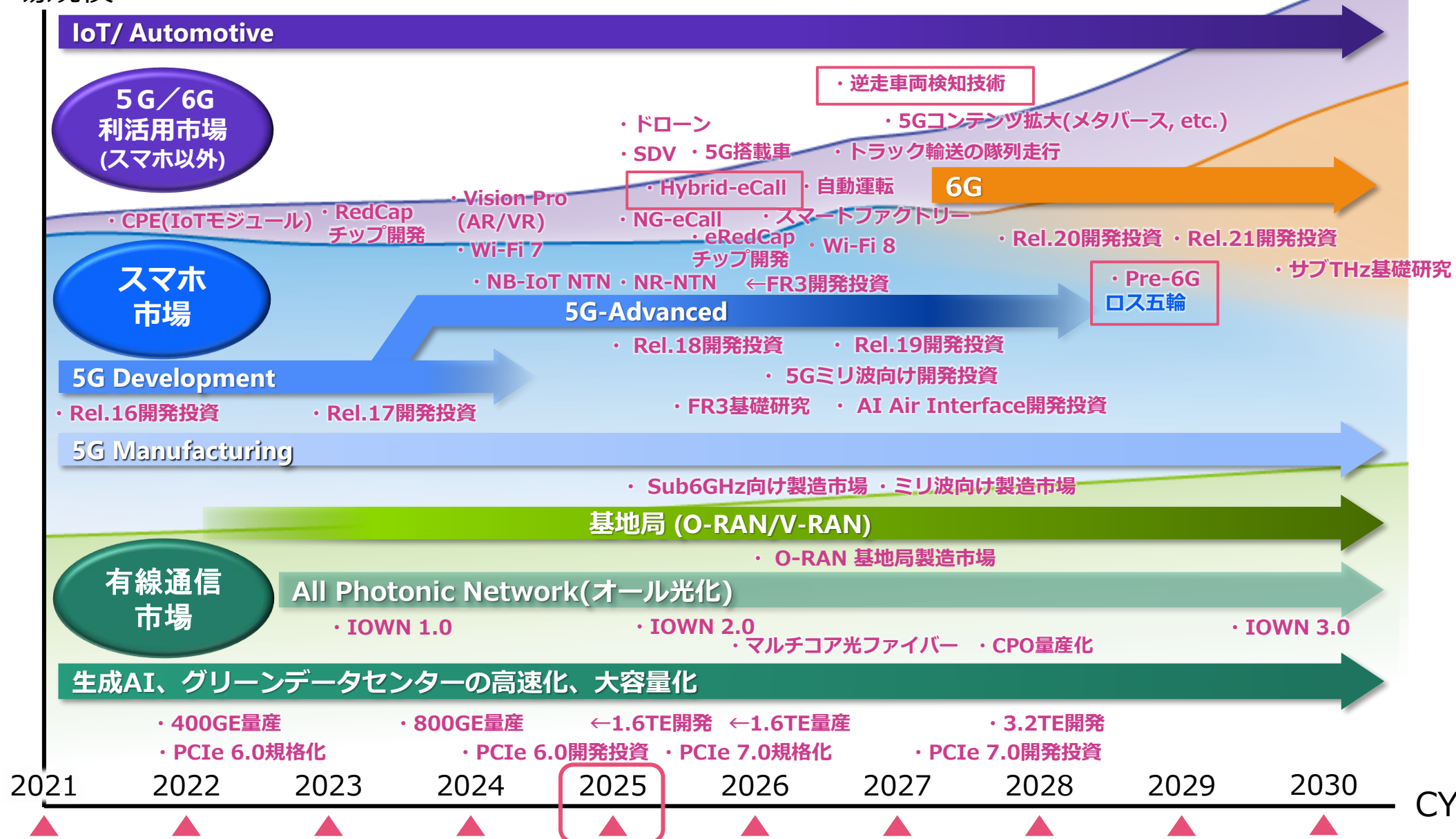
アンリツの強み

- 高い技術力
 - 高度な技術の蓄積
 - 有線・無線双方の技術を保有
 - キーデバイスを自社開発
- グローバルなキープレイヤーとの信頼関係
- グローバルな開発・販売・サポート体制

2-4. 通信計測市場トレンドと事業機会

2025年10月改版

市場規模



2-5. 通信計測事業の製品紹介

生成AIの普及によりデータセンターが増加しています。
そこで使われる光トランシーバー生産ライン用計測器が**好調**です。

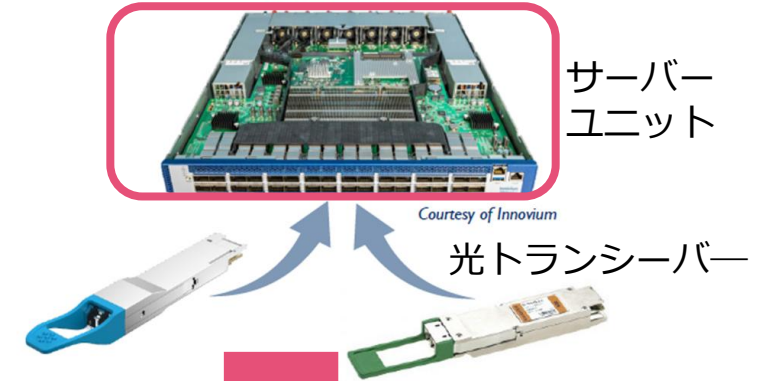
出典：Yole社の市場調査レポートより



BERTWave MP2110A

- 400GE/800GE/1.6TE向け光トランシーバーの性能評価環境を提供
- データセンターのサーバー間通信の高速化で需要拡大
- 生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴うデバイス/モジュール評価に対応

400GE/800GE/1.6TE信号



サーバーラックの裏側
大量の光トランシーバーと光ファイバ

出典：Explore our photo gallery - Google Data Centersより
<https://www.google.com/about/datacenters/gallery/>



2-6. 事業の紹介 - PQA事業 -

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆ モバイル市場 : 5G/6G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光/無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備、研究開発

PQA事業

食と医薬品の安全・安心

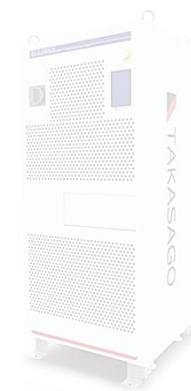


- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場

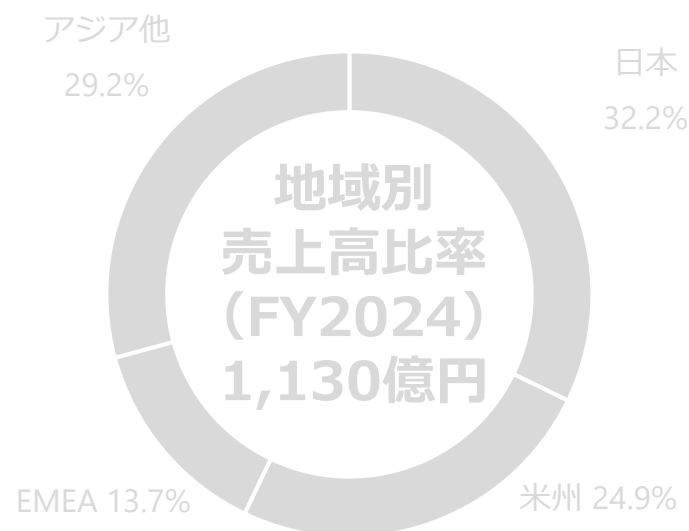
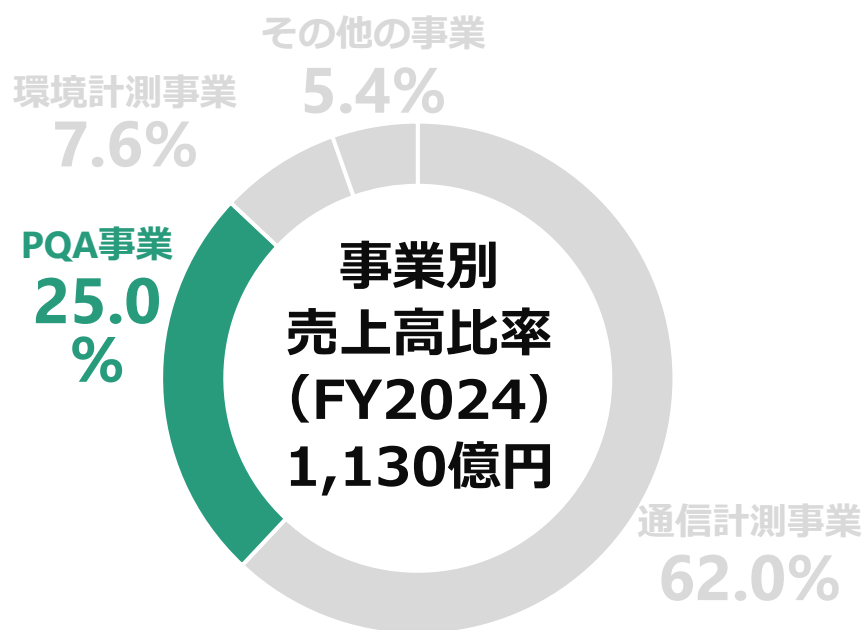
PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

脱炭素社会を目指して



- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場

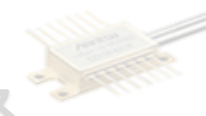


* EMEA : 欧州・中近東・アフリカ

その他の事業

(センシング&デバイス事業など)

- ▶ センシング用光デバイス
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

2-7. PQA事業の製品・ソリューション

食品・医薬品の安全と安心を見守る

総合品質管理・
制御システム

QuICCA

被検査物の例



スナック菓子



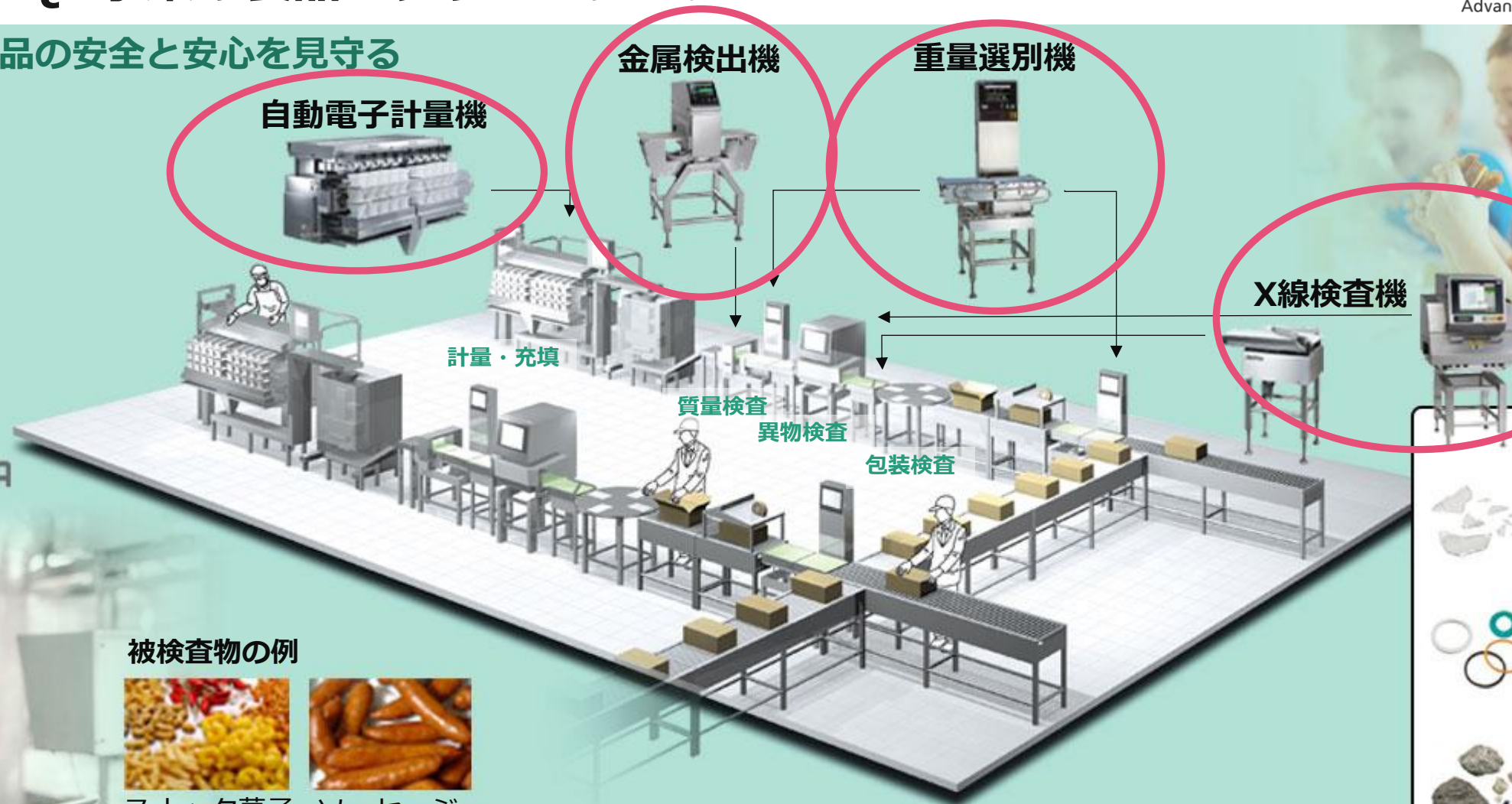
ソーセージ



錠剤/カプセル



カット野菜



異物の例



ガラス、
プラスチック
ク片など



硬質ゴム
(パッキンなど)



石片



骨、貝殻

2-8. 食品検査業界の特徴とアンリツの強み

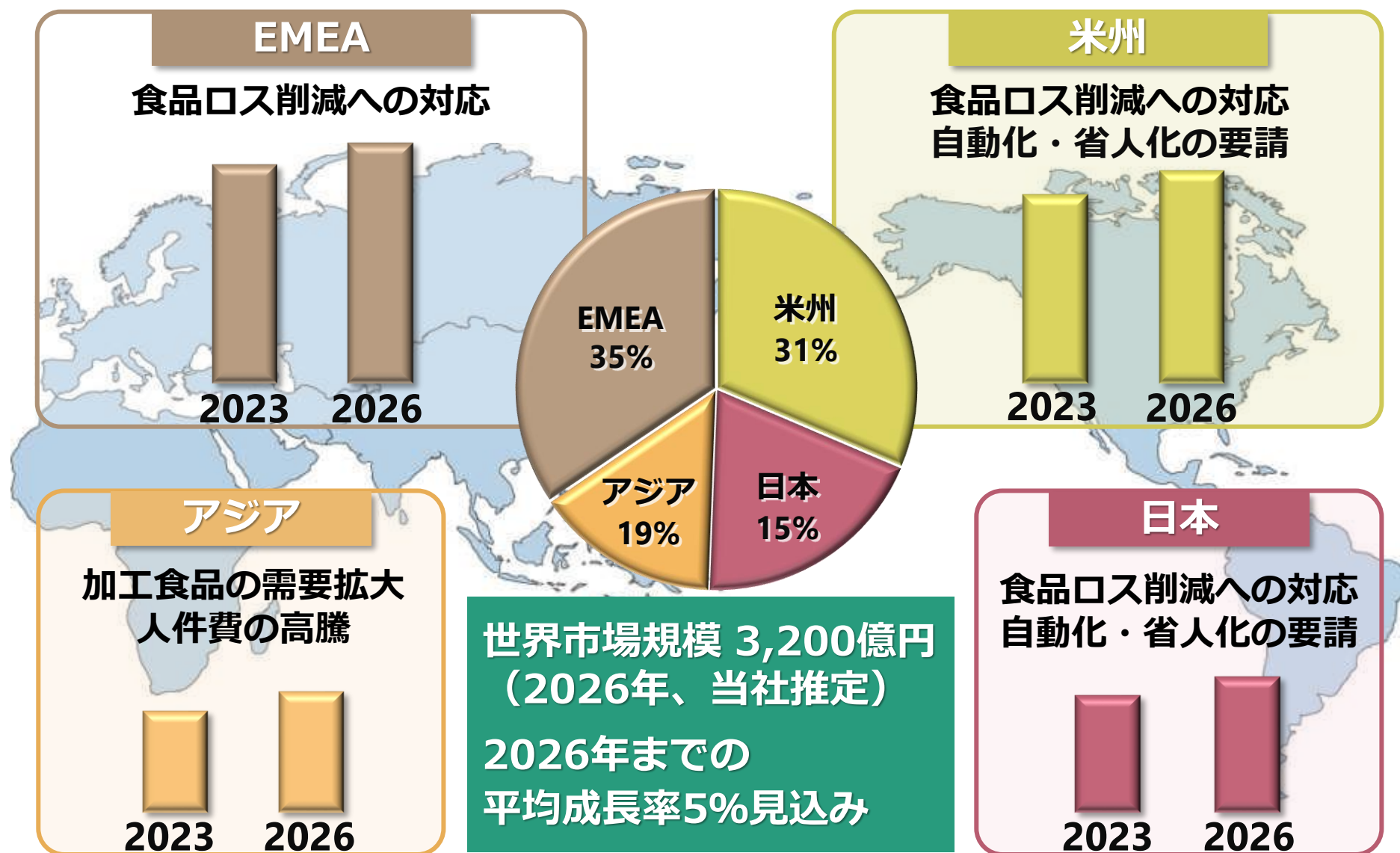
食品検査業界の特徴

- 世界的な食の安全安心への要求の高まり
- 食品生産ラインの自動化・省人化
- 競合企業は、イシダ社（日）とメトラ・トレード社（スイス）、その他地域ごとに多数

アンリツの強み

- 高速・高精度な品質検査技術
- 充実した保守体制
- 国内の食品検査市場でのトップクラスの市場地位

2-9. 食品検査市場の現状と見通し



たとえば、食品の生産ラインで使われる**異物検出機**をつくっています。

省力化と品質管理強化を両立する XR76 シリーズ 新型X線検査機



検査設定や誤検出品の再検査では多くの人手を必要とします。最新鋭のセンシング技術と優れた操作性で異物検査や欠品検査を行います。

鶏肉の残骨検査



異物検査

食品などに含まれる石やプラスチック、残骨などを検出します。



欠品検査

お弁当のおかずに欠品がないか検査します。

欠品

2-11. 事業の紹介 - 環境計測事業 -

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆ モバイル市場 : 5G/6G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光/無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備、研究開発

PQA事業

食と医薬品の安全・安心



- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場

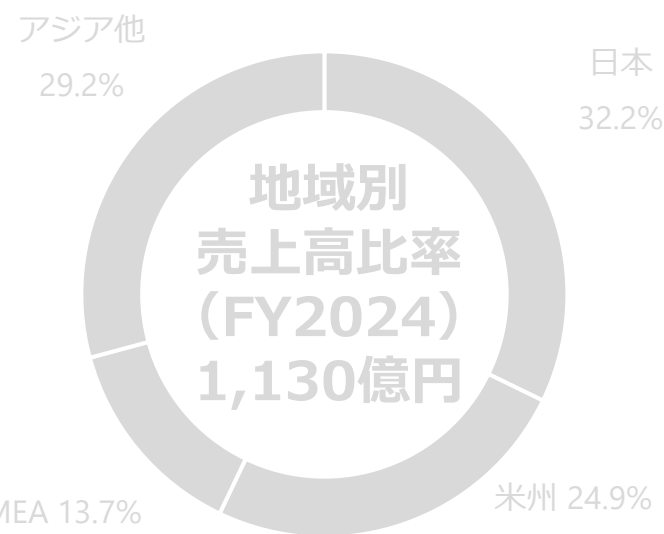
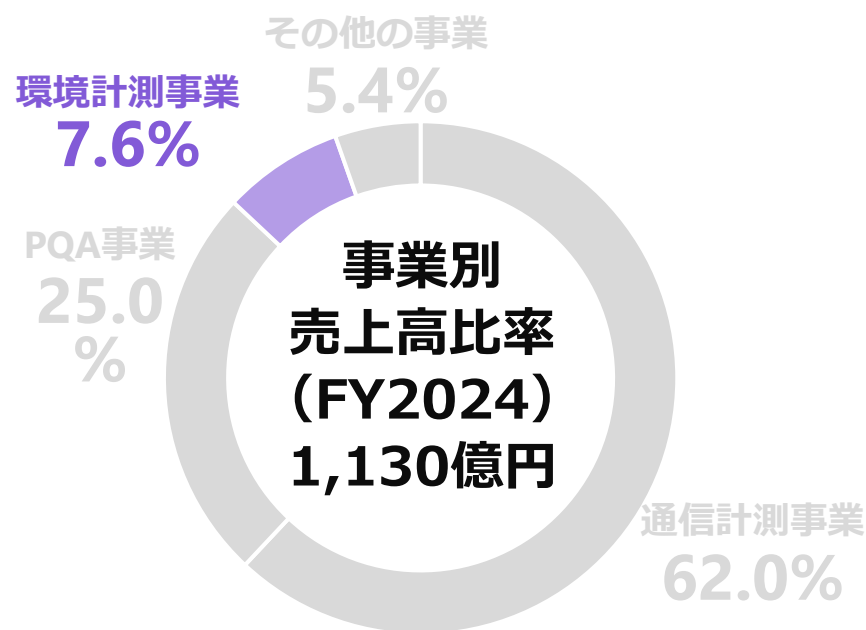
PQA : Products Quality Assurance

環境計測事業

脱炭素社会を目指して



- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場



* EMEA : 欧州・中近東・アフリカ

その他の事業

(センシング&デバイス事業など)

- ▶ センシング用光デバイス
- ▶ 通信用光デバイス
- ▶ 通信用電子デバイス



先端技術研究所

- ▶ 次世代技術の獲得
- ▶ 6Gに向けた研究開発

エネルギー制御と情報通信の技術で安全・安心に住み続けられる豊かな社会の実現を目指す

パワーエレクトロニクス事業

脱炭素社会実現への貢献



- 電動モビリティの性能向上と普及
- 内燃機関電動化の加速
- 再生可能エネルギー活用促進
- 脱炭素社会に向けたインフラ整備

ネットワーク事業

社会インフラの強靱化



- 社会インフラ監視の高度化
- 防災・減災センサネットワーク
- 金融ネットワークの信頼性向上
- 建設工事の安全性向上

ものづくりの効率化・省人力化



- ものづくり現場の情報高度化
- 遠隔監視技術による人手不足対応
- ローカル5G/無線LAN活用促進
- 作業者動線分析/異常検知

2-13. 環境計測事業の製品紹介

EVの駆動系や電池の試験をサポートする高性能電源の提供

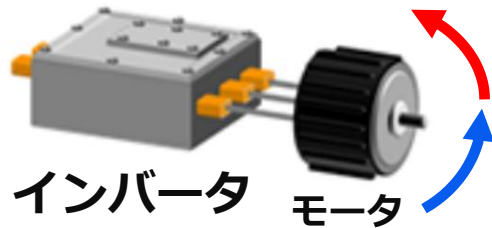
数百ボルトになるEVの駆動系での電圧。このEV向けの試験用高電圧電源を、これまで培った高精度、高速応答、高安定、高効率な電力制御技術により実現、EVで使われる電池やモータなどが安全・安心に利用できるかどうかの試験をサポートしています。

インバータ・モータ評価

電気で回転

電気を供給

電気を吸収



慣性で回転

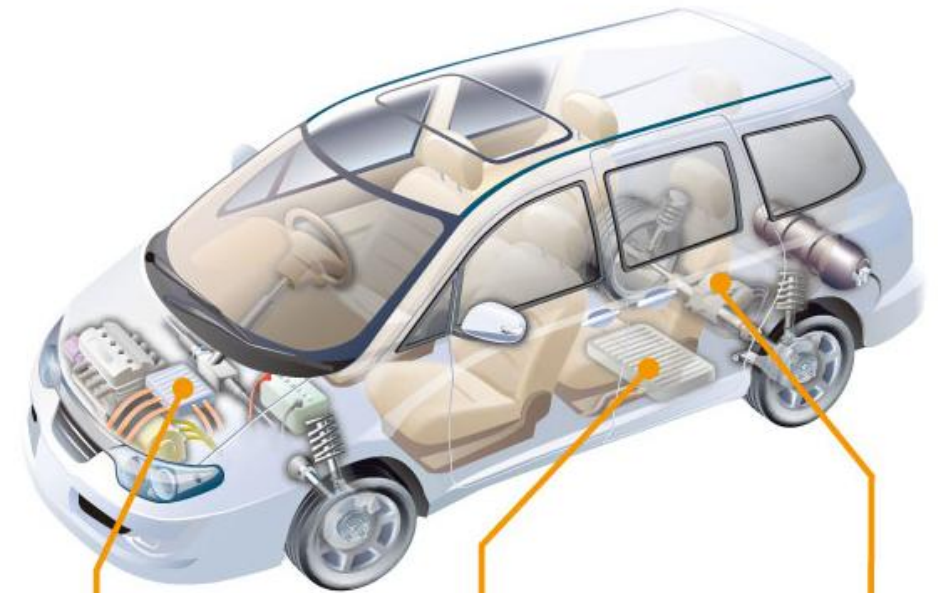
電池充放電試験

電気を供給

電気を吸収



バッテリー



インバータ

バッテリー

モータ

RZ-X2-100K

3. 業績について

3-1. 連結決算概要 - 上期業績サマリー -

▶ 前年同期比 減収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	535	550	15	3%
売上高	533	517	△ 16	△ 3%
営業利益	36	50	14	41%
税引前利益	34	54	20	58%
当期利益	22	38	16	70%
当期包括利益	3	45	42	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

3-2. 連結決算概要 - 上期事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測は減収増益、PQAは増収増益、環境計測は減収減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	340	309	△ 31	△ 9%
	営業利益	25	39	14	55%
PQA	売上高	130	145	15	12%
	営業利益	11	15	4	37%
環境計測	売上高	35	29	△ 6	△ 17%
	営業利益	1	△ 1	△ 2	-
その他	売上高	28	33	5	17%
	営業利益	6	7	1	18%
調整額	営業利益	△ 7	△ 10	△ 3	-
合計	売上高	533	517	△ 16	△ 3%
	営業利益	36	50	14	41%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

3-3. 2026年3月期 通期業績予想（連結）

通信計測、PQAで増収増益を狙う

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)			2025/3期	2026/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比増減額 前年同期比増減率(%)
売上高			1,130	1,230	100 9%
営業利益			121	150	29 24%
税引前利益			127	150	23 18%
当期利益			93	110	17 19%
通信計測	売上高		701	770	69 10%
	営業利益		84	120	36 43%
PQA	売上高		282	300	18 6%
	営業利益		28	30	2 6%
環境計測	売上高		85	100	15 17%
	営業利益		9	9	0 0%
その他	売上高		61	60	△ 1 △ 1%
	営業利益		15	10	△ 5 △ 31%
調整額	営業利益		△ 14	△ 19	△ 5 -

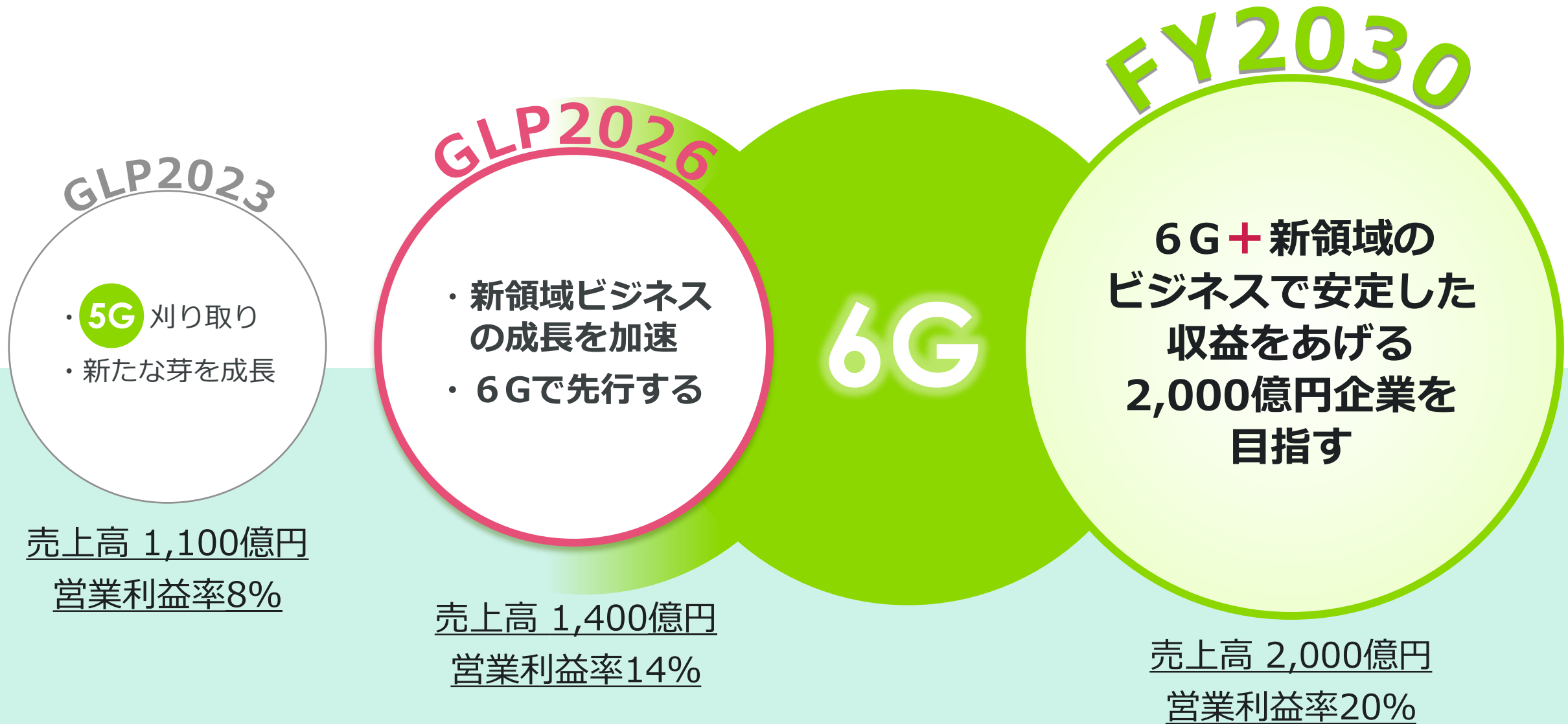
（参考）FY24 為替レート : 1米ドル153円、1ユーロ164円
FY25 想定為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ160円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

4. 中期経営計画

4-1. FY2030に向けて

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



4-2. GLP2026中期経営計画

指標
売上高
営業利益
営業利益率
当期利益
ROE

通信計測事業	売上高
	営業利益
	営業利益率
PQA事業	売上高
	営業利益
	営業利益率
環境計測事業	売上高
	営業利益
	営業利益率

GLP2026

FY2024実績
1,130 億円
121 億円
11 %
93 億円
7.4 %

701 億円
84 億円
12 %
282 億円
28 億円
10 %
85 億円
9 億円
11 %

FY2025計画※1
1,230 億円
150 億円
12 %
110 億円
9 %

770 億円
120 億円
16 %
300 億円
30 億円
10 %
100 億円
9 億円
9 %

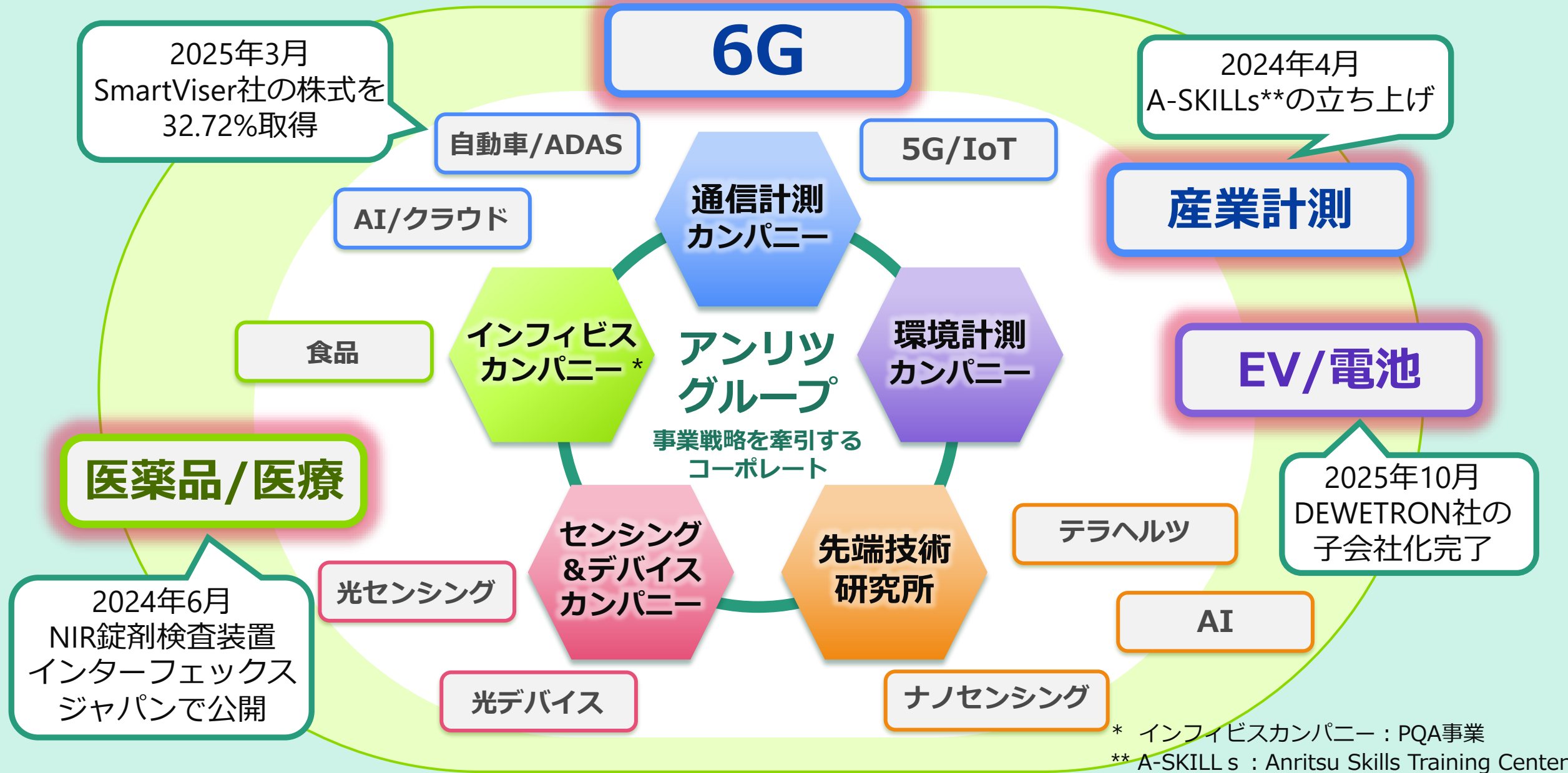
FY2026計画※2
1,400 億円
200 億円
14 %
150 億円
12 %

900 億円
150 億円
17 %
300 億円
36 億円
12 %
130 億円
14 億円
11 %

※1：FY2025想定為替レート：1米ドル145円、1ユーロ160円

※2：GLP2026計画時想定為替レート：1米ドル=145円、1ユーロ=155円

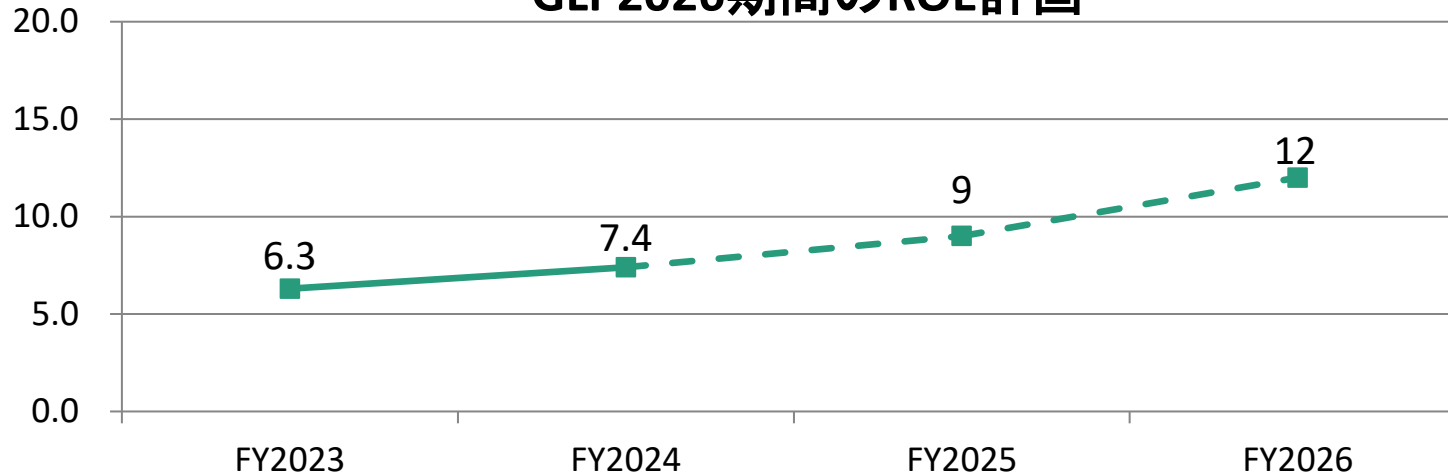
4-3. GLP2026 6Gと3つの新領域ビジネスと進捗



4-4. 財務戦略

1. 株主資本コスト（7%）を上回るROEの実現
企業価値KPI ROE $\geq$ 12%

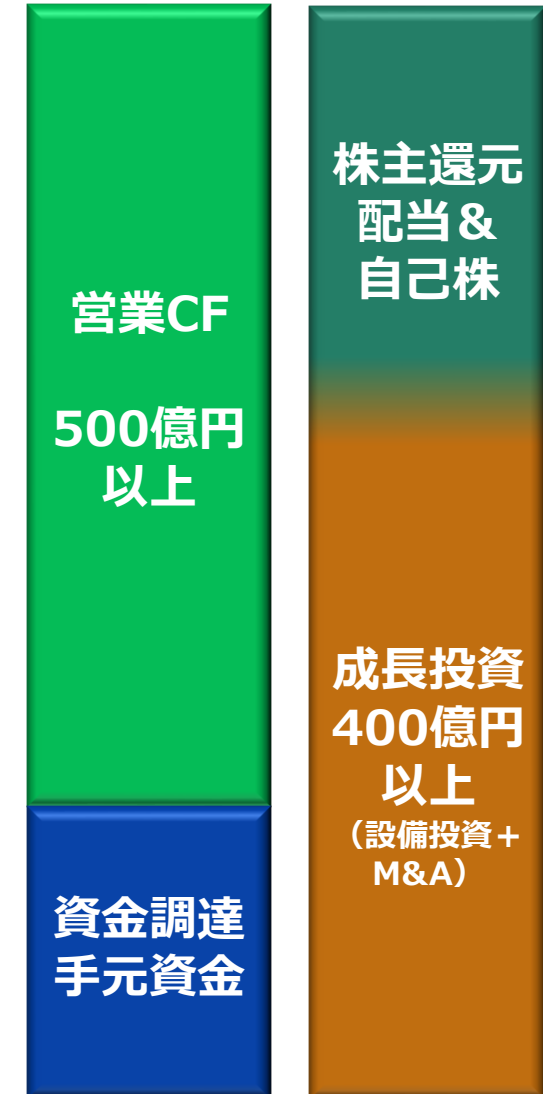
GLP2026期間のROE計画



2. キャピタルアロケーションの最適化

500億円以上の営業CFに加えて、資産効率性の向上と強固な財務体質を活かした資金調達によりキャッシュを創出し、新領域のビジネスを推進するために400億円以上の成長投資を行います。株主還元については、配当は連結配当性向50%以上を目標とし、自己株式の取得は必要に応じて機動的に実施致します。

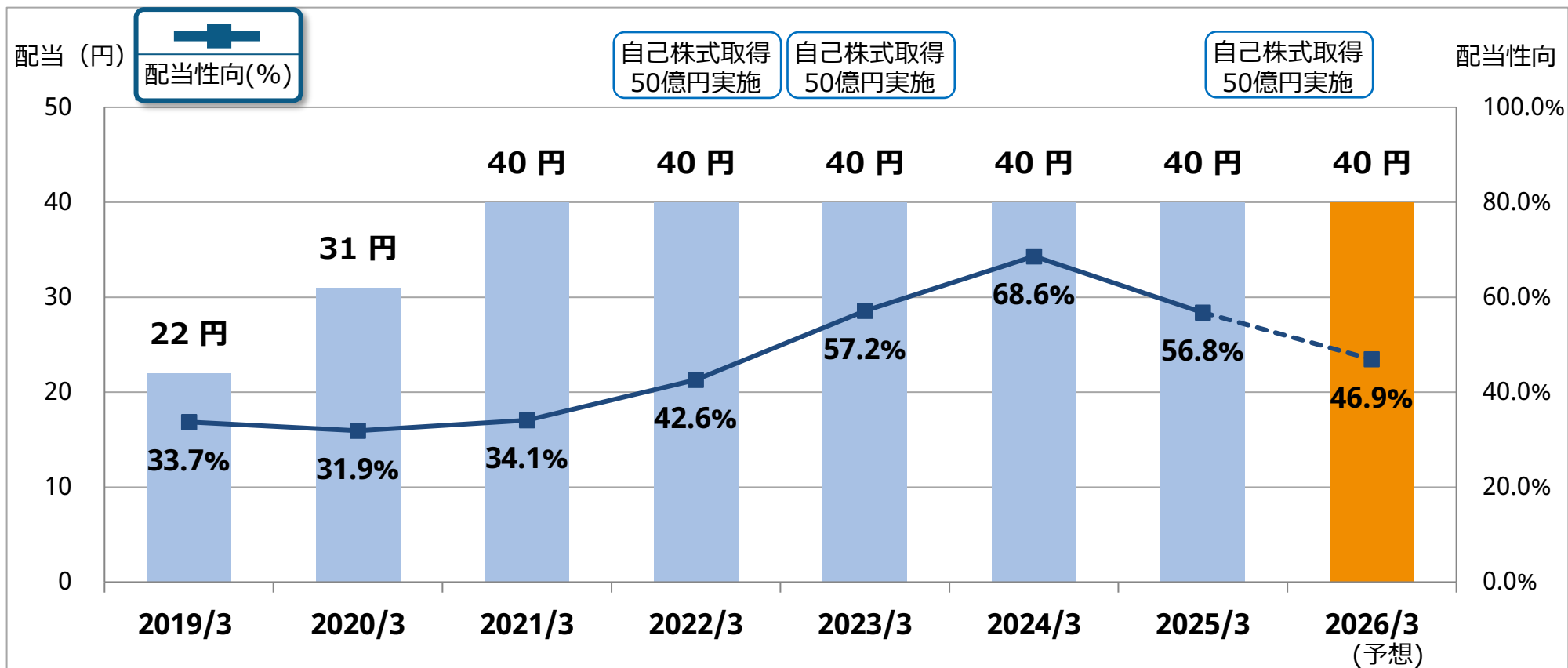
GLP2026期間の
キャピタルアロケーション
キャッシュ創出 キャッシュ使途



5. 株主様還元について

5. 配当予想について

2026年3月期 年間配当予想 : 40円



3年間の 総還元性向	GLP2020 (FY2018~FY2020)	GLP2023 (FY2021~FY2023)
	33.3%	87.5% (自己株式取得100億円含む)

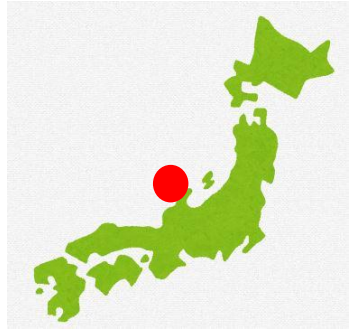
6. ESGへの取り組み

- 能登半島地震で被害を受けた珠洲焼の研修生を奨学金で応援 -

6. 能登の若手珠洲焼陶芸家を応援 - 珠洲焼みらい基金を設立 -

珠洲焼みらい基金：石川県珠洲市の伝統工芸「珠洲焼」の研修生向け奨学金制度
(2025年6月、アンリツなど4社で設立)

伝統文化の復興を支え、地域産業や経済活性化への貢献を目指す活動です。



珠洲焼



12世紀から15世紀に珠洲市付近で生産された中世の日本を代表する陶器の一つ。鉄分を含む珠洲の土を高温で焼くことで灰黒色になります。約400年前に生産が途絶え、1970年代に復活しました。伝統産業として根付いたところ、能登半島地震で約20ある窯が全滅しました。今も再開できた窯は5つに満たないといえます。

2025年7月開催のアンリツ総合技術展「TECHNO PLAZA 2025」用に制作していただいたコーヒーカップです。お客さまに配布しました。



